

広がる円ブリオ基金の輪

群馬 “赤ちゃんの命”にふれる 温かな円ブリオ基金

群馬県前橋市の新井千津子さんは、20年前、ラジオ「こころのともしび」の遠藤藤子先生のお話を聞き、「これなら私にもできる」と会う人ごとに円ブリオ基金を紹介。前橋カトリック教会の鈴木陽美子さんとのご縁もあり、92歳の現在も毎月基金を集め、送金下さっています。

新井「今の若者や子ども達は、命も自分で作れると思っているように感じます。私は、命は人間の自由に来るものではなく、人間に与えられた宝物だから、周りのみんなまで守らなければいけないと思います。」

お腹の赤ちゃんの命を思うと、とても心が豊かになり、円ブリオ基金のように、赤ちゃんの命にふれるお仕事は、一人ひとりの心が温かくなります。赤ちゃんもお年寄りも、誰でも同じ命。円ブリオ基金の活動が広がって、赤ちゃんを迎える温かい社会になってくれたらいいなあと思います。



新井千津子さん（左）鈴木友袋さん（右）が三井住友銀行のATMに目薬袋に100枚ずつ分けて入金したり、工夫して送金下さっている。

大分 “いのちは授かりもの”を伝える円ブリオ



15年前に、くまがい産婦人科の待合室に貼っていた一枚のポスターを、当時、亀城大学（臼杵市の高齢者生涯学習の学び場）に入っておられた一人の女性の方がご覧になり、「癌になった高齢者の私にも出来るボランティアアだ」と、亀城大学に拡げ下された事が始まりでした。

この活動を臼杵の地元に着させたいと公民館や臼杵市長にも、直接訴えて下さり、現在では、亀城大学や学園でお話しさせて頂いたり、また月に一度、横断幕と募金箱を手街頭募金を実施させてもらっております。小さな袋に入れた1円玉を必ず持つてきてくれたり、「赤ちゃんの為に頑張れ」と言葉をかけてもらい、元気を頂いています。

命を作るとの感覚が多い今こそ、命は作れるものではなく、授かりものだと日本人が伝統的に受け継いできた生命観を、一円玉を集めるという取り組みの中で広く知らせたいと思っています。ご縁が一枚のポスターから広がったように、小さな命を守りたいと願う仲間が広がることを願っています。

（熊谷孝子）



札幌 天使大学の大学祭で 円ブリオの展示



北海道新聞に、円ブリオ北海道の活動やホットラインのことが紹介され、記事を見た方から箱いっぱい1円玉が届きました。



大阪 街頭キャンペーンに初めて参加して

今回街頭キャンペーンに参加させて頂き、貴重な経験をすることができ、最初は緊張してあまり声を出せませんでした。時間が経つにつれ声も出るようになり、最終的には積極的に声をかけすることができ良かったです。今回はチラシ配布でしたが、次回、ポケットティッシュ等に印刷物を入れて配布したりすると、手に取りやすくなるのではないかと思いました。

生命尊重活動に興味を持っているので、今後も講演会や今回のような活動の機会があれば、積極的に参加させて頂ければ嬉しいです。

（中学三年 若林）

円ブリオ基金箱を置いて下さる、家庭、お店、学校、団体、企業を募集しています。
基金箱の設置にご協力下さい！

円ブリオ通信

一億人が1円を出し合って、みんなで赤ちゃん誕生を喜ぶ社会を。
発行 NPO法人円ブリオ基金センター URL www.embryokikin.com



支援したお母さんから感謝のお手紙

出産も子育ても
学業も頑張ります！

私は学生でありながら、妊娠していることが分かり、分かった時には産むしかない週数でした。卒業が目の前だったのに休学することになり、1年在学期間が延びてしまいました。そのため、出産費用だけでなく、学校の費用がさらにかかることになってしまい、金銭面で大きな不安がありました。そんな時、母が円ブリオ基金のことを知り、一緒に相談させて頂きました。

出産費の支援が決まった時はとても嬉しく、安心して出産に臨むことができました。生まれてきた赤ちゃんはとても可愛く、絶対に幸せにしたいと思いました。これからは、子どもを大切に育てていき、自分自身もきちんと学校を卒業し、看護師として自立できるような頑張っけていきます。皆様とのご縁に感謝をもって生きていきたいと思えます。(Nさん)



ご支援・ご協力、ありがとうございます。

皆様の1円で誕生の赤ちゃん **992** 人になりました！

(R5・8月20日現在)

まもなく
1000人



円ブリオベビーのお母様が
事務所に喜びの訪問！

円ブリオ北海道代表 堤邑江

昨年「娘が教育大に合格しました！」の嬉しいお知らせを下さったKさんが、お母さんと妹さん母子と共に事務所を訪問して下さいました。19年前結婚を前提に同居していた中での妊娠にも関わらず中絶を求められ破局。円ブリオとの出会いは出産を望んでの支援の依頼でした。「子どもを守りたい」との強い思いを支えつつ、生活環境を整えることから始め、実家に身を寄せての出産となりました。出産後は実家のお母さんと一緒に愛情いっぱい子育てされ、保育所入所、小学校入学、中学校入学等折々に近況をお伝え下さっていました。

この度はその娘さんが大学の寮生活をされていることや、自動車の免許を取得されたこと等お話し下さり、お心づくしのお土産と1円玉をどっさり！ご寄付も一緒に届けて下さいました。そして美しく成長された娘さんの高校の卒業式の和服姿の記念写真に胸が熱くなりました。

(「円ブリオ北海道」通信より)

SOS相談室より



Aさんの相談は不安げな小さな声で途切れとぎれに始まりました。結婚も考えていたパートナーが突然豹変。一人での出産になってしまったことを少しずつ話してくれました。相談の受け手としては、パートナーへの怒りを抑え、まずは、妊婦さんが突然の窮地に陥りながらも、お腹の赤ちゃんを大切に守ってくれたことに、「ありがとう」とお伝えしました。出産後のお手紙に「守ってくれて…その言葉の瞬間に嬉しくて心強くて頑張ろうと思えました！赤ちゃんとっても可愛い！」とありました。色々な事情でシングルママにならざるを得ない方がいます。「出産」という大切な決断をした妊婦さんに、ひと口1円を集めて下さる皆さまの温かい応援があることをお伝えし、出産や子育てを頑張っけてほしいと相談を受けています。

(円ブリオ基金センター相談員)